

米国ドラマセラピー生みの親の一人
ロバート・ランディー博士
ドラマセラピー講演会

講演：ドラマセラピーと精神分析におけるアクションメソッドのつながりを学ぶ

心理学や演劇学からの影響を受けたドラマセラピーには、様々な手法やアプローチがあります。ドラマセラピストの基本的立場は共通するものの、セッションを進めるにあたって参考とする背景の理論や手法は、セラピスト個人によってそれぞれ違いや特長があります。

ルネ・エムナー博士（応用人間科学研究科・客員教授）と並び、ドラマセラピーの米国における生みの親の一人でもある、ニューヨーク大学大学院ドラマセラピー学科学科長のロバート・ランディー博士は、各演劇理論やユング心理学、社会理論などの影響を受けながら発展させた「ロール（役割）理論」を提唱しています。この理論をもとに、体現化やストーリーなどの手法を用いながら比較的分かりやすく、親しみやすい形でセッションやワークショップを行っています。この度、ランディー氏が初来日される貴重な機会を得て、彼独自の考え方について講演会で学び、理解をより深めてみませんか。

ドラマセラピーとは・・・「治療的効果を得るために、演じることや演劇創造の過程・手法を意図的に用いる、集団（および個人）精神療法」（米国ドラマセラピー学会定義より）
欧米では医療・教育・福祉など様々な臨床場面で幅広い年齢層に実践されている。

●●● **ロバート・ランディー博士 講演会** ●●●

日時： 2月24日（水）15時～18時
場所： 立命館大学 衣笠キャンパス 創思館 カンファレンスルーム
定員： 150名（※事前申し込み不要）
参加費： 無料



講師：ロバート・ランディー博士 (Robert J. Landy, Ph.D., RDT/BCT)

ニューヨーク大学大学院ドラマセラピー学科学科長 同大学院演劇教育学科及び応用心理学教授。アメリカにおけるドラマセラピーの開拓者の一人。
米国ドラマセラピー学会の会長を務め、ドラマセラピー関連論文が多く掲載される「The Arts in Psychotherapy」雑誌の編集者を務めるなど、長年にわたり多くのドラマセラピストの教育・指導に従事。
「Drama Therapy – Concepts, Theories, and Practices」「The Couch and the Stage: Integrating Words and Action in Psychotherapy」(2008) など、著書多数。2008年に出版された著書の中では、ドラマセラピーのルーツを辿り、精神分析から活用され始めるアクションメソッドについて、また、そういったアクションメソッドとドラマセラピーとのつながりについて論じている。
ドラマセラピー界への貢献をたたえ、米国ドラマセラピー学会より Gertrud Schattner 賞を受賞。ニューヨーク大学でも Distinguished Teaching Award などの賞を受賞する。

立命館大学心理・教育相談センターではさまざまな悩みについてのカウンセリングを行っております。詳しくは、お電話にてお問い合わせください。 TEL：075-466-3430
(非通知設定の方は、番号の通知設定をしてからおかけください。)

お問い合わせは・・・
TEL:075-465-8375(応用人間科学研究科)
E-MAIL:doku-ken@st.ritsumeai.ac.jp
※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。